

葉栗連区 地域づくり協議会だより

2025年12月(110号)



葉栗 HP

発行日：2025年12月1日 発行者：葉栗連区地域づくり協議会

ホームページ：<https://138haguri.org/> (スマホからは上記 QR コードより)

葉栗連区の人口と世帯数 <2025.10.1 現在> 人口 15,875 人 (男 7,744 人 女 8,131 人) 世帯数 6,961 世帯

☆ 幅広い世代の多種多様な力作展示

葉栗文化祭が11月2日(日)に開催され、約700名の来場者で終日にぎわいました。今年もオープニングセレモニーでは、一宮北高校和太鼓部の力強い演奏が響き渡り、会場は温かい拍手と手拍子に包まれました。

館内では、公民館主催の各種講座や趣味クラブの作品に加え、一宮北高校、葉栗の小中学校、保育園児、老人クラブなど、幅広い世代と団体の多種多様な力作が展示されました。来場された方々は、個性豊かな作品群をじっくりと鑑賞し、大いに楽しまれていました。

屋外には野菜の販売やみたらし団子に大勢の方が訪れ、大人気でした。また、児童育成協議会によるバルーンアート会場では、親子連れがゴム風船でリンゴや犬、刀などの作成に挑戦。中には空気を入れすぎて破裂してしまう場面も。会場は順番を待つほどの盛況ぶりでした。

午前10時から中は会議室で葉栗芸能協会の発表会が開催され、大正琴、詩吟、民謡などの地域で活動する団体の皆さんが、日頃の練習の成果を披露。さらに、小中学生が所属するダンスサークルの「RECダンス」と「ダンスサークル チェキッ!」の若さあふれる熱演が会場を盛り上げ、文化祭のフィナーレを飾りました。地域住民の文化交流の場として、世代を超えた多くの方の笑顔が見られた一日となりました。

葉栗文化祭開催 ☆



野菜の販売 大盛況!



《素晴らしい出来栄 展示作品》



《バルーンアートに挑戦》



《元気な踊り REC ダンス》



《葉栗民謡クラブ》

☆ 知っていますか？ 聴導犬のこと ☆ 民生児童委員協議会

外見からはわからない聴覚障がい。日々の生活で感じる不安や願いを知るため、このたび民生児童委員協議会は「安心と安全」を運ぶ聴導犬の役割を学ぶため、10月16日に長野県駒ヶ根の日本聴導犬協会を視察しました。目的地は緑豊かな高原にありました。

聴導犬は、目覚まし時計、玄関チャイム、子どもの泣き声、呼び鈴、火災報知器など、生活に必要な音や命を守る音をユーザーに知らせます。特に東日本大震災では、聴覚障がい者の死亡・不明者が健常者の3倍であったという事実から、災害時のリスクコミュニケーターとしての役割も極めて重要です。社会とユーザーをつなぐ大切な情報の仲介役なのです。

盲導犬と異なり、聴導犬はかわいい小型犬が多いのが特徴です。同協会では、主に保護犬や譲渡犬の中から才能のある犬を育成し、身体障がいのある方へ無料訓練、無料貸与、無料アフターケアを実施されています。聴覚障がいの方にとって聴導犬はかけがえのないパートナーですが、国からの補助はわずかで、運営費の98%は皆さんの寄付と募金で支えられています。私たちの活動が、聴導犬訓練活動支援の一助となり、聴覚障がい者の方々の「安心」につながることを心より願っています。



☆ 地域に響く、若き情熱の調べ ☆ 一宮北高校和太鼓部

1975年（昭和50年）開校で、昨年50周年を迎えた県立一宮北高等学校。今回、同校の和太鼓部「一北和太鼓」を訪ねました。部室から聞こえてくる軽快で力強い和太鼓の演奏は、11月2日の葉栗文化祭のオープニングセレモニーに向けた練習の真っ最中。総勢11名の部員が、場所を交代しながらバチさばきを繰り広げていました。

一北和太鼓部は、2002年（平成14年）に10名で同好会として発足。先輩から後輩へとリズムを体で教え込み、「風の彷徨」「炎舞物語」「碧之拍道」など現在7曲が脈々と受け継がれています。太鼓の演奏には体力も不可欠なため、筋力トレーニングやランニングにも熱心に取り組んでいます。

一宮市内の県立高校で和太鼓部があるのは同校のみ。和太鼓への憧れから入学する生徒も多く、卒業後も地元のと太鼓クラブで活躍する卒業生もいます。年間20回以上、葉栗文化祭、木曽川堤サクラまつり、島村厄除けまつり、交通博、一宮七夕まつりなど地域の様々なイベントで演奏を披露し、日本の伝統芸能を守り続けています。若い世代が地域に活力を与える活動を、今後とも応援していきたいものです。



☆ 全校の力を結集！ 葉栗中学校体育祭 ☆

10月8日（水）に、令和7年度葉栗中学校体育祭を開催しました。当日は葉中生の熱気にも負けないくらいの暑い一日となりましたが、予定していた日程を行うことができました。本年度の体育祭スローガンは『限界突破！高めろ団結！！みんなが輝く大舞台！！』です。このスローガンの下、各群団、各学年で様々な競技が行われました。

開会式では4群団の団長より素晴らしい選手宣誓が行われました。体育祭は全学年が縦割りで群団を編成して各競技に臨みます。午前中は学年ごとの競争種目や群団での得点も入る群団種目。生徒の皆さんはチームで考えた作戦の下、限界を突破するべく全力で競技に臨んだり、応援したりする姿が見られました。

午後からは、群団対抗の綱引きです。「引っ張れ！心をついに！」の合言葉の下、各群団での熱い戦いが



繰り広げられました。同率で優勝を勝ち取ったのは青群団と緑群団。これで終わりと思いきや、最後に待ち受けていたのは「葉中教職員チーム」。エキシビジョンマッチとして行われた、優勝チーム（同率によりじゃんけんにて緑群団と）対教職員チームの対戦も大いに盛り上がりしました。

体育祭の最後を締めくくったのは、3年生による集団演技。「力強さ」と「華やかさ」を十分に表現し、会場にいるすべての人を魅了しました。グラウンド全体がまさにみんなが輝く大舞台となりました。PTA 総務委員皆さまをはじめ、多くの方々にご支援をいただき、体育祭も無事に終わることができました。ありがとうございました。《寄稿：葉栗中学校》



☆ たわわに実った稲を刈りました！ ☆ 葉栗中学校2年生

実りの秋を迎え、10月23日（木）に、今年度も葉栗中学校の伝統行事である「2年生稲作体験学習【稲刈り】」を行いました。久しぶりに田んぼに行った2年生の生徒は田植えをした時の苗が、金色の稲穂に育っている様子に「大きくなって！」と歓声を上げていました。

本日の主な作業は、稲を刈り、穂を束ねて結び、ハサに干していく作業となります。生徒たちにとってはもちろん、参加する職員もほとんどが初めての体験でした。初めて手にする鎌での作業では、力の入れ方や刈りやすい姿勢など、事前に学習したことを思い出しながら、JA 愛知西の方の説明をしっかりと聞き、作業に取り組みました。初めはぎこちない作業の様子でしたが、作業を進めるにつれて、刈り取るスピードも速くなってきました。生徒からは「刈り取る時の手ごたえが気持ちよかった」とか「ざくざくと刈る方法をつかんだ」などの感想が聞かれました。

今回も、保護者ボランティアの方を募り、生徒たちのサポートに入っていたことで、無事に作業を終えることができました。刈り取られた稲がハサに掛けられた様子は壮観です。本日の作業を経て、稲が順調に乾燥していけば、次はいよいよ脱穀の作業となります。秋のさわやかな日差しと風を受けながら、そよそよと揺れる稲穂を見ると、脱穀して真っ白なお米になる日がさらに待ち遠しくなりました。3年生への感謝の気持ちを伝える大切なお米が、たくさん収穫できることを願っています。《寄稿：葉栗中学校》



☆ みんな がんばった はぐりんピック！！ ☆ 葉栗北小学校

10月18日（土）に、令和7年度の「はぐりんピック」を行いました。昨年度と同様、当日の天候が危ぶまれましたが、無事に開催することができました。

今年度のスローガンは『汗キ拉里 みんなが主役 葉北っ子！』、子どもたちは本番に向けて、学年で心と力をひとつに合わせて練習に励んできました。そして、当日はそれぞれのがんばりを十分発揮することができました。

低学年は、徒競走・玉入れ「レッツ 葉北 フェスティバル」、中学年は、徒競走・競争遊技「サイコロ ハリケーン」・表現「葉北っ子ソーラン 2025」、高学年は、綱引き・学級対抗リレー・表現「葉北一ズ ハイ！」を行いました。今年度は、徒競走や競争遊技などの得点がつく種目の結果、白組が勝ちましたが、演技中は赤組も白組もほかの学年にも大きな声援を送り、とても盛り上がるものとなりました。また「表現」においては、どの学年も力強く、生き生きとした表情で踊っている様子がみられました。

保護者の方々もたくさんお越しくださり、子どもたちの演技に大きな拍手を送っていただき、最後まで笑顔いっぱいの「はぐりんピック」を行うことができました。《寄稿：葉栗北小学校》



☆ 思い出に残った 修学旅行 ☆ 葉栗小学校

10月23日（木）・24日（金）に6年生が修学旅行に行ってきました。子どもたちは、いちばん楽しみな行事として9月になってから準備に取りかかり、下調べや班決めなどをしてきました。天気にも恵まれ、子どもたちは楽しく2日間を過ごすことができました。

一日目、法隆寺の見学を終えてから、東大寺の大仏殿を見学しました。東大寺の大仏の大きさに驚きました。奈良公園では「鹿せんべい」を鹿にあげる子もいました。

二日目、金閣寺の見学では、金色に輝く金閣を背景に写真を撮り、二条城の見学では「うぐいす張り」の音が鳴る仕組みを廊下の床裏から見ました。仲間とともに充実した二日間を過ごし、スローガン通り、最高の仲間とともに、「大仏より大きく、金閣寺より輝く思い出」を作ることのできた修学旅行となりました。この修学旅行で学んだことを生かし、残りの小学校生活を送ってほしいと願っています。《寄稿：葉栗小学校》

